

風をうけて

あきらめない

『 バッタを倒しにアフリカへ 』 前野ウルト浩太郎 著

著者の前野氏は、幼少期に『 ファーブル昆虫記 』に感銘を受け昆虫学者になることを夢見て大学で博士号を取得したものの、職にあぶれて食いつち扶持に困っていました。博士生命をかけて、言葉も通じないアフリカ西海岸モーリタニアのバッタ研究所へ赴き、バッタ被害を食い止めに……

もしかすると、学校図書館にあるかもしれないと思って探してみたら、ありました！

昆虫学の博士が書いているけれど、難しい研究書ではありません。表紙のイメージどおり面白い博士で、本気で緑色の全身タイツを身にまとい砂漠を駆け巡る姿に思わず笑ってしまいます。数々の困難にぶつかりながらも、現地の人々に助けられながら異常発生するバッタと闘う博士。

困難をひとつひとつ乗り越えていく姿は感動的であり、日本人を受け入れる現地の人々のやさしさに心が温まります。「 ああ、やっぱり諦めないことは大切なんだなあ 」という読後感。

たまには本を読んでみよう

外山 滋比氏 (英文学者・言語学者・評論家) が読書について語っている文章があります。

「本を読むだけになってしまってはならない」。読書は知識を増やすのには適しているけれど、代わりにこちらの思考力を奪いかねない。いたずらに情報や知識を集めるのではなく、それを知恵へと高めていくことが必要。思考力を働かせ、自分なりの知見を創出することが大切なのでしょう。冬休みに入ったら、ほんの少しの時間を利用して本と付き合うのもいいかもしれませんね。

